

平成29年9月19日

各部局等の長 殿

高浜市長 吉岡 初浩

平成30年度（2018年度）予算編成について

第1 予算編成のスタートにあたって

人工知能の発展やIOT（モノのインターネット化）の普及など、社会の変革につながる技術が急速に発展しつつあり、これまで当然に行われてきたことが、明日は通用しなくなるような極めて大きな変化が生まれている。社会が猛烈なスピードで変化する時代に、難しい決断を迫られる場面も予想されるが、アンテナをしっかりと張り、ネットワークを広げて、全庁一丸となり課題解決に臨まなければならない。問われてくるのは、仕事に対する姿勢と覚悟である。

本市の財政見通しについては、本年3月に改訂した長期財政計画において、平成30年度からの10年間で約170億円の普通建設事業を見込んでいる。この主なものは、高浜小学校等整備事業をはじめとする小中学校の大規模改修で、既存施設の建替え・改修が集中する。この大きな波は、本市の財政運営の転換点であり、これまでに経験したことのない課題に向き合うことを意味する。「どうしたら、この課題を乗り越えることができるか」、部局を越えて考え抜き、徹底的に議論を重ね、解決策を見出していかなければならない。

また、平成30年度は、将来都市像「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかしま」の実現に向けて、第6次高浜市総合計画総仕上げの4年間でスタートする年である。これまでに積み残した課題を明確にして、今後の4年間で目標を達成するという強い決意と緊張感を持って、計画の推進に当たられたい。

そこで、平成30年度の予算編成方針は、「未来へつなぐスタート予算」とし、編成にあたっては、新たな財源の獲得に全力を挙げるとともに、聖域なく事業の見直しを進め、無駄を排除し、予算の中身を重点化するなどメリハリをつけた予算編成を行うものとする。

職員一人ひとりが前例に捉われることなく、一層の柔軟な発想と創意工夫により最大限の努力を傾注し、果敢に挑戦することを強く期待する。

第2 予算編成の基本的な考え方

少子高齢化の進展や公共施設の老朽化対策など、厳しい財政状況も予想される中で、これまで取り組んできた施策や事業がしっかりと成長し、大きな実をつけるよう着実に事業を推進する。また、高浜市の「今」と「未来」を見据えて、持続可能な自治体経営を推進していくため、以下、3つの基本的な考え方を掲げる。

(1) 事業の見直しと重点化

すべての事業について、前例踏襲や現状維持という発想を排除し、ゼロベースでの点検・見直しを実施するとともに、事業効果が低いものは事業の組み替えや削減を行い、予算の中身の重点化を図ること。

(2) 現場主義とトップマネジメントの視点

現場が抱える課題を踏まえ、「限られた財源をどのように活用すれば、課題の解決（成果）につながるのか」という視点から十分に議論を尽くすこと。また、事業の目的や目指す成果等の徹底した検証を行い、経営的な視点で真に必要な事業の見極めをすること。

(3) 重点取組事項への財源配分

サマーレビューの結果等を踏まえ、重点取組事業に優先的に予算の配分を行う。

第3 重点取組事業

平成30年度の予算編成は、第6次高浜市総合計画総仕上げの4年間がスタートする年であり、サマーレビューの結果等を踏まえ、以下、10の事業を重点取組事業と位置づける。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ①徴収率の向上につながる事業 | ②公共施設総合管理計画の推進につながる事業 |
| ③情報発信の強化につながる事業 | ④行政内部事務の省力化につながる事業 |
| ⑤安心な子育て環境につながる事業 | ⑥ICT教育につながる事業 |
| ⑦教育環境の向上につながる事業 | ⑧企業誘致・産業振興につながる事業 |
| ⑨防災力の強化につながる事業 | ⑩地域包括ケアシステムの構築につながる事業 |